

ミドリベッコウ

Bekkochlamys kagaensis (Pilsbry & Hirase)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

奥越山地の亜高山帯に分布するが、自然林がチップ材利用や針葉樹の植林地に改変等、本種の生息林床の条件が明らかに悪化し、確認される個体数もかなり少なくなっている。

種の特徴

殻高 12 mm、殻径 17 mm、巻数 5 回の円形の陸産貝類。殻は緑色を帯びた黄褐色（ベッコウ色）薄質で光沢の強い半透明。殻表には細かい成長脈が存在する。黒褐色の軟体部は、殻に納まりきらない。

分 布

白山山系に分布する。県内では白山山系の大野市和泉の上打波、大野市の智奈洞谷等の一部の亜高山帯に生息する。池田町の冠山や大野市の仙翁谷は激減して絶滅に近い。

生息を脅かす要因

水辺や湿地、日陰のササ群落の湿潤な落葉下にしか生息できないため、林道等の整備、沢や水辺の落葉広葉樹の伐採による生息地の乾燥化が主な要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）、環境省（2005）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	

ココロマイマイ

Satsuma cardiostoma (Kobelt)
異鰓目・ニッポンマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

福井県の亜高山帯自然植生や冷温帯自然植生が、スギ植林等で生息条件が明らかに悪化し個体数・生息地が減少している。

種の特徴

殻高約 14 mm、殻径約 15 mm、巻数約 6 回、丸みを帯びた円錐形で黄褐色から茶褐色。殻表は平滑で光沢がある。軟体部は茶褐色で暗褐色の小斑点が多数散在する。ブナ林の倒木下に生息する。

分 布

主として近畿地方北東部に分布する。本県内では奥越山地や南条山地の山麓部や、亜高山帯のミスナラ、ブナ帯に分布する。

生息を脅かす要因

林道開発やスギ・ヒノキの植林、森林の伐採によるブナ林等の自然度の高い落葉広葉樹林の減少が主な要因である。収集家・愛好家による過度の採集や、登山者等の増加による生息地の環境変化も個体数減少の要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）、湊（1997a）、窪田（1962）、黒田（1933b）、環境省（2005）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○					○	○	○	

ケハダビロウドマイマイ

Nipponochloritis fragilis (Gude)
異鰓目・ニッポンマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

平野部や山麓部のスギ植林地や落葉広葉樹の混交林帯に生息するが、個体数が大幅に減少している。希産種となった。

種の特徴

殻高約 12 mm、殻径約 18 mm、巻数約 5 回で淡黄褐色。縫合が深く、体層が急激に膨らむ扁平な球状巻貝。殻は薄質で殻表には先端がカギ状の短毛状の殻皮が規則的に密生してピロード状になる。口唇は薄い。軟体部は黒色で光沢が強く、殻に入りきらない。

分 布

北陸、近畿、中国地方に分布。本県内では低山地帯から丘陵地の湿潤な倒木の下や落葉下に生息し、嶺北地域の低山の山麓帯と嶺南山地には多く生息する。

生息を脅かす要因

生息地が宅地造成や墓地整備、道路建設等開発の対象となりやすく、自然度の高い落葉広葉樹林の減少と、生息地の乾燥化が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○